

# 令和4年度 事務事業評価シート（1）

## [ 令和3年度事務事業 ]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	障害者（児）短期入所緊急利用			事業番号	011-154
担当部署名	健康福祉	局	障害福祉	部	障害支援
				課	

### I. 基本情報

#### 事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～	施策	(5) 障害者が生きがいを持って心豊かに暮らせる社会の実現
		寄与するKPI	有	取組の方向性	② 障害者の暮らしの場の確保		
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	指標名	—		
		寄与するKPI	無	現状値	—	目標値	—
1	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	ゴール(10)人や国の不平等をなくそう	ターゲット	10.2
		寄与するKPI	有	取組	障害者児及びその家族に対する支援		
1	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	指標名	—		
		寄与するKPI	無	現状値	—	目標値	—
2	関連計画	第4次堺市障害者長期計画、第6期堺市障害福祉計画、第2期堺市障害児福祉計画					
3	事業開始年度	平成 16 年度	点検年度	令和 7 年度			
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	堺市障害者（児）短期入所緊急利用支援事業実施要綱					

#### 事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁、各区				
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	本市に住所があり、かつ、本市において短期入所の支給決定を受けている在宅での介護を必要とする障害者児	対象数	約2500		
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	急病による入院など、介護者の緊急の事由により介護を受けられなくなった障害者児が、短期入所を円滑に利用することができる体制を確保することで、介護を受けている障害者児及び家族が安心して在宅で生活を送ることができるようにする。				
8	事業内容 (目的を達成するための手段) ※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など	<p>緊急時における短期入所の利用のため、本市と協定を締結した社会福祉法人の短期入所事業所において、緊急用ベッドを確保する。</p> <p>また、本事業は、国が示す障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、障害者・児の地域生活支援のための機能として、「相談」、「体験の機会・場」、「緊急時の受け入れ・対応」、「専門的人材の確保・養成」及び「地域の体制づくり」の5つの機能を整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築する地域生活支援拠点等の機能の1つである「緊急時の受け入れ・対応」として実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用期間は、1回当たり7日以内</li> <li>・緊急用ベッドの利用のなかった日について、1ベッド1日当たり6,550円を負担金として法人に支払う。</li> </ul>				
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載					
9	主な支出先 (委託・補助金・負担金等)	社会福祉法人 コスモス、社会福祉法人 障友会				
10	公民連携・協働事業					

### II. 事業目的の達成状況

#### 事業の成果や活動実績の測定

11	定性的な成果目標	在宅で生活する障害者（児）が、介護者の緊急時に短期入所を利用できる				
	当該目標を設定した理由	在宅で生活する障害者児が、介護者の緊急時に短期入所を利用できる体制が維持できていることが成果である。				
	目標に対する実績	延べ利用者数 令和元年度32人、令和2年度9人				
	活動指標(成果を上げるための手段)	単位	実績		目標	
12	緊急用ベッドの延べ利用日数	日	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
			目標値	—	—	—
			実績値	25	87	—
	達成率	—	—	—		
	当該指標を選定した理由	利用日数により、利用ベッドの稼働状況がわかるため。				
	目標値の設定根拠・算出方法	緊急事態の発生日を数値目標として設定することが困難なため、目標値は設定しない。				

## 令和4年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	障害者（児）短期入所緊急利用	事業番号	011-154
-------	----------------	------	---------

### Ⅲ. 投入量

#### 事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算
事業費 (a)	4,945	6,083	4,154	4,212	2,128
13財源内訳					
国支出金					0
府支出金					0
市債					0
その他 ( )					0
受益者負担金(使用料、手数料等)					0
一般財源	4,945	6,083	4,154	4,212	2,128
14人件費 (b)	810	820	820	820	820
15年間経費(c)=(a)+(b)	5,755	6,903	4,974	5,032	2,948

#### 事業費の内訳

(単位：千円)

項目	年度	事業費	うち 一般財源	項目	年度	事業費	うち 一般財源
障害者（児）短期入所緊急入用負担金	R3 決算	4,212	4,212		R3 決算		
	R4 予算	2,128	2,128		R4 予算		
	R3 決算				R3 決算		
	R4 予算				R4 予算		
	R3 決算				R3 決算		
	R4 予算				R4 予算		
	R3 決算				R3 決算		
	R4 予算				R4 予算		

### Ⅳ. 事業の効率性

#### 単位当たり経費

区分	単位	令和2年度	令和3年度
① 延べ利用日数	日	25	87
② 上記①にかかる年間経費	千円	6,903	5,032
③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	276,120	57,839
備考 (算出についての説明等)			

### Ⅴ. 評価

#### 費用対効果に係る所見

18 本事業は、在宅で生活する障害者児が、介護者の入院等の緊急の事由により、介護者からの介護を受けることができない場合に備え、緊急用ベッドを確保しているもので、他の短期入所施設が満床で利用することができないことが利用の要件となっている。  
令和3年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点で、利用を自粛する方の影響から、他の短期入所施設が満床で利用できない状況は少なかったものの、緊急用ベッドの利用日数は増加している。  
また、令和3年度は、1日当たりの負担金を障害区分5のサービス報酬（766単位、食費を含み8,628円）から障害支援区分3のサービス報酬（570単位、食費を含み6,550円）へと見直しを行ったため、本事業に係る単位当たり経費は大幅に改善している。  
なお、令和4年度は、緊急用ベッド数を2床から1床とし、減じた1床は社会福祉法人が日々の短期入所の受け入れとして効率的に活用できるように見直した。また、令和5年度から、国制度を活用した事業の再編を行う予定である。

#### KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19 本事業は、急病による入院など、介護者の緊急の事由により介護を受けられなくなった障害者児が、短期入所を円滑に利用することができるよう、短期入所事業所における緊急用ベッドを確保しているものであり、障害者の暮らしの場の確保の取組の方向性である障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制の構築として寄与している。